

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390200602 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 四ツ葉会 | | |
| 事業所名 | グループホームげんきむら (Aユニット) | | |
| 所在地 | 岡山県倉敷市中庄2960-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月14日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200602-00&PrefCd=33&VersionCd |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート | | |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年2月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個性を生かし、日々の生活を通して在宅生活の復帰を目指した支援を行っている。 ・日々のレクリエーションを通してスタッフ、利用者共に良好な関係作りを築いている。 ・毎月の行事、誕生日会などのイベントを行い、利用者様に楽しんでいただいている。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>グループホームは建物の2階に位置しており、朝10時頃このホームへの階段を利用者が職員と共に「いっちにー、いっちにー」と声をかけながら降りてきた。職員は「身体機能低下を防止するため階段の昇り降りを活用して機能訓練をしています。週に3~4回しています」と説明してくれた。理念に「心身の状態が向上していくような生活創り」を掲げており、ケアプランにも利用者が元気に生活するためのニーズを満たすよう、このリハビリが示されていた。家族からもいつまでも歩けるよう望まれている。利用者が階段の昇り降りを繰り返し実行し、もっと元気になり、ご飯を多く食べられ楽しい思いで生活できることを望みつつ陰から声援した。利用者のアセスメントをしっかりと、一人ひとりの状態に応じた色々なリハビリをするよう計画、実行している。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 楽しい中にも心身の状態が向上していくような生活を創り、利用者が元気になって意欲的に過ごせる環境を創り在宅生活に戻れるように支援する。 | 理念は「楽しい中にも心身の状態が向上していくような生活創り」という極めてシンプルで分かりやすい。利用者個々のアセスメントを行い、心身の機能向上のためのケア内容を定め、ケアプランに反映させている。 | 理念はホームの活動の方向性を示すものであり、職員がケアやサービス提供の状態を振り返る指針とすべきものである。どのように実行できたか振り返るように意識を高めるようにしていきたい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩に出た時は、地域の方に積極的にあいさつをしている。マスカット球場に行き、声を掛けて会話するように努めている。 | 利用者が近所に散歩に出るとき、付き添いの職員がホームのネーム入りのユニホームを着ているので、地域の方は「ホームの人」を認識して挨拶してくれる。老人会の方が見学に来ることもある。機会を見つけて地域の人にホームの情報を発信している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に参加していただき現状報告をして、認知症の方の情報を共有して、理解を深め協力していただけるようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所職員、介護保険課職員、家族、利用者が出席して、感想や意見、提案する助言をもらい、職員で話し合っ、サービスの向上につなげている。 | 運営推進会議では、主としてホームの利用者の状況、ホームの活動や行事について報告し、参加者の意見を聞いて運営に反映させている。会議の場で、アルバムによりホームの活動と利用者の様子を見てもらっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護保険課の担当者の方とは、事前の質問や疑問、改善等の相談にのってもらいよりよい事業運営が出来るように取り組んでいる。 | 運営推進会議に市の職員が参加しており連携が密にできる。利用者の成年後見制度についても相談し、アドバイスももらった。3月には市の介護保険課から、介護報酬の改定について説明を受けることになっている。ホームの職員が中学校で、介護の仕事について講義をする予定もある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について研修を定期的に行い理解していき、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束にあたる行為はしないように職員に周知徹底している。研修を行い理解を深めている。入口の施錠については、基本的には自由に入出入り出来るようにしている。 | ホーム内や外部の研修で身体拘束について意識を高めているので今までに拘束の実体はない。介護の困難事例があれば職員から相談があり、管理者が拘束しないケアの方法を伝え、職員で共有している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体チェックを行い、異常発見の時は原因究明を徹底している。対応が適切でない声かけや介助があれば注意したり、指導をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している利用者はいないが、会議を通して研修を行い情報共有して理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を交わす時は、重要事項説明を行い、丁寧に説明するように心がけている。質問も設けて、十分に納得していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者の様子を面会時や電話等で伝えている。意見や要望があれば話をサービス向上になるよう取り組んでいる。 | 運営推進会議に参加した家族の要望を聞いて運営に反映させている。また、家族にはホームからの連絡メモに意見を書いてもらうようにしている。電話で家族に相談することもある。家族からは「もっと外出の機会を作って欲しい」等の要望もあった。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議やユニット会議を行い意見、提案を集約している。個別の面談も設けて改善を行っている。 | 職員には毎月の目標を提出してもらい、自己反省を書いてもらっている。その中から、職員の意見を拾い運営に反映している。全体会議で出される意見もあり、できるだけ多く職員の声を聞くようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の希望休日を確実に提供出来るようにしている。就業環境は管理者が職員としっかりと話をし、法人の代表と話をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 多種類の法人内研修をしている。各事業でも研修を行い指導している。資格取得へのバックアップを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者の他事業所との交流や職員の他事業所の知人との交流をして情報交換を行っている。職員の交流を深めていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の前には、本人と面会をして要望を十分に聞き、安心して過ごせて頂けるように説明をして話をする。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の前には、家族の意向や希望を聞き、ケアプランに反映できるようにする。見学にも来てもらい、施設の様子もみてもらう。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族にこれまでの生活情報を聞き、利用者に合った支援を行えるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者が可能な範囲で役割を持って実践し、お互いに感謝し合える関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者に変化があれば様子を報告し家族にも面会に来て頂く。関心を持ってもらい絆が切れないようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚や友人が面会に来やすい雰囲気作りをして、ゆっくりと過ごしてもらえるような環境を整え、関係が継続できるようにしている。 | 利用者の馴染みの人がホームに面会に来てくれている。利用者から「昔よく行った、酒津公園の桜の花を見たい」との要望があり、皆でドライブがてら公園に花見に行ったこともある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の相性を見極め、お互いの関係が良好に継続できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスの終了直後は様子を聞いたりしているが、徐々に減ってきている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の要望や意向を理解してなるべく思いに沿った対応や支援を行っている。 | 管理者は「平素から利用者一人ひとりの笑顔作りに努力している。本人に笑顔が出れば、本音の話が出る」と言う。管理者が、実際に1対1で、少し時間を取って利用者と話しをしている様子を見かけた。 | ホームの指針の一つに「しあわせのちかみちは、いつも笑顔をわすれずにいること。またひとつしあわせがあなたにちかづいてくる」と書いてある。この意味を熟慮して、職員が何を仕向けたらこうなるかを考えて職員間で共有すると価値があるだろうと思う。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者、家族、施設関係者の方から情報を集めるのと、普段の会話からの新しい情報には注目して対応している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者ひとりひとりの生活リズムを理解して、変化がないか常に観察している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアカンファレンスやユニット会議を通じて利用者のニーズの把握に努め、家族の意向も踏まえた介護計画を作成している。 | 利用者の担当制を敷いている。担当者の意見を聞き、家族メモから家族の要望も取り入れ、さらに、ユニット会議で出された個人の情報等を集約し計画作成担当者がプランを作成している。プランには利用者の状態に沿った機能訓練の項目もある。 | 機能訓練の内容は「歩行訓練・立ち上がり訓練・屈伸運動・階段運動」等ほか、具体的に書かれている。評価は「できた、できない」となっているようであるが、その原因や要因を分析してアセスメントをすれば、機能訓練はもっと充実したものになる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の日々の様子や発言を介護記録に残して、職員同士で情報共有できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じ、職員間や看護師、医師の方と連携しながら、ニーズに対応出来るよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近くのお店に職員と出かけ好みの物を購入している。地域の方とは会えば挨拶を交わしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関やその他専門機関と連携を図って、状態の変化などあれば往診時に報告し適切な医療を受けられるようにしている。 | ホームの常勤看護師が利用者の健康状態の把握をしている。協力病院が2院あり併せて月3回の往診がある。ホーム内でも、利用者の状態によっては点滴ができる体制にある。オンコール体制も敷かれており、利用者は安心して医療的なケアを受けることができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤の看護師の配置があり、バイタルサインの異常、入浴時の身体観察、病状の変化等は看護師へ必ず報告し指示を受けて対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は定期的に医療機関へ訪問や電話をし、家族、関係者と連絡を取り早期の退院につなげて受け入れが出来るようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時には、重度化した際の説明をしている。本人や家族と話し合いをし、医師との連携も図りながら終末期に向けてどのような方針で援助するか考えている。 | ホームは開設して3年弱、まだターミナルの経験はない。入居時に家族にはホームの体制の現状を説明している。若い職員が多いので、協力病院の医師に職員に対する終末期に臨んでの研修について相談をしようと考えているところである。 | この法人のグループには特別養護老人ホームもある。ホーム単体としてではなく、法人の全体で、終末期の体制が取れるよう準備することが望まれるところである。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 訓練は定期的に行っていないが、その都度の対応時には指導しながら行っている。管理者、看護師には迅速に連絡が取れて指示が出るようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を訓練を通じて全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中、夜間の想定をして防災訓練を年2回実施して、避難がスムーズに行えるように努め、運営推進会議にて地域の方と情報共有をし協力体制を築いている。 | 消防署に訓練計画を提出して年2回消防関係の業者の指導のもと訓練を実施している。近隣は住宅街なので地域の方にも協力を要請している。 | ホームは建物の2階にある。指定された非常口には降下するための避難器具が常設されている。いざと言うときに、誰もが避難器具の操作ができるように、全職員に確認する必要がある。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者には常に敬語で会話をするように心がけている。言葉使いが乱れた時はその都度注意し指導している。 | 法人全体の研修や定例会議の場で、この件についての意識確認をしている。日常勤務時でも、職員同士でお互いに注意しあっている。管理者も、職員の言葉遣いには細心の注意を払っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その都度、選択できるようにしている。飲みたい物などは複数の選択肢を提案して自分で決められるよう促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れは決まっているが本人の意見を聞きながら体調や希望に沿った生活を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装の自己決定が出来ない利用者には、職員と一緒に選んだりアドバイスをしている。月に1回の訪問理美容を利用し、散髪、毛染め、パーマ等をして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 可能な利用者は食事の準備を職員と一緒にやっている。食事中は味付けや好みを聞きながら、職員も同じ食事を食べて共感している。 | 法人全体の食事を管理する管理栄養士が1ヶ月単位の献立を作ってホーム内の台所で3食作っている。予め献立が決まっているので、嫌いなものが出される時は利用者の希望を聞いて別メニューの提供をしている。食後、職員が「今日の食事は何点？」と聞くと何人かの人が点数を答えており、微笑ましい食事風景が見られた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を毎食時しっかり確保している。 医師や管理栄養士に相談し、疾患のある利用者は食事のカロリーや水分量を制限している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に自立の利用者は声かけし、出来ない利用者はケアを行っている。 義歯の管理は、個々の状態に応じて訪問歯科等を利用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの把握に努めて、排泄時間を記録に残し、タイミングを見て声かけや誘導を行っている。 | 日中は全員トイレでの排泄を実行している。夜間は本人の状態を見ながら、また、本人の意向を聞きながらその人なりの対応をしている。トイレ誘導時に職員は言葉かけに注意していたし、その場に居る職員にも「〇〇さんをトイレ誘導します」と伝えていた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳や食物繊維の摂取を促したり、体操や散歩等適度の運動をしていただけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的な入浴の流れはあるが、順番や時間など利用者に聞きながら気持ちよく入浴できるように努めている。 | 週2～3回の入浴を実施している。重度化した人には2人介助で安全を心がけている。入浴時には本人の身体チェックを欠かさない。また本人に、入浴した時には自分でチェックをもらって、「この間入ったから今日は入らん」との入浴拒否を防止することに努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調のすぐれない利用者は居室にて休んでもらったり、夜間に寝付けない方は話を聞いて安心して休んでもらえるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書の一覧を個々にファイリングして、常に確認出来るようにしている。服薬確認も、職員同士で2重チェックを行い、確実に服用出来るようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力に応じて、洗濯物たたみ、おぼん拭き、タオルたたみ等していただいている。日々、楽しみを探し出すよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ベランダを利用して日光浴や足浴を行っている。天気の良い時は散歩に行っている。ドライブに行き定期的に気分転換を出来るようにしている。 | 近くに運動公園があり、天気の良い日には散歩に出かける人も居る。ドライブに行くこともある。また、暖かい日にはベランダに出て外の空気に触れ日光浴をしている。ある利用者は「ベランダに出て日光浴をすることが楽しみの一つ」と話してくれた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人、家族の希望で自己管理の出来る入居者は、少額ではあるが個々で管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と話がしたい時は、電話をして話が出るようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 定期的に和室で行事を行い、ユニット間の交流を図ったり、和室を自由に使用できるようにしている。行事の新聞を作り掲示している。 | ユニットは南向き。そして南側にベランダに出れる大きなガラス戸があるので日当たりも十分あるし、リビング全体が明るい。職員が、時々窓を少し開け空気の還流を図ると共に暖房による湿度が下がることにも気をつけている。利用者は気持ちよくリビングで過ごすことができる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自室で自由に自分の時間を過ごしたり、共同スペースで気の合う入居者同士で同じテーブルに座ってもらえるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた馴染みのあるタンス等を持ってきていただいている。本人が自宅で使用していた枕や布団等を持ってきていただいている。 | 南向きにあるリビングが大きいので居室は北向きの部屋が多いが大きな窓があるので部屋は明るい。ベッドの枕元に、居住者の名前が貼ってあるところもあり、自分の部屋であることを意識付けている。また、利用者が職員の手助けをしたことに感謝して、各部屋にホームからの感謝状が掲げあ | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 通路には、物を置かないように配慮している。 お風呂の入り口には、大きなのれんを付けてわかりやすくしている。 | | |